

■欧州：欧州太陽光発電産業協会、2009年導入実績と今後の見通しを発表

欧州太陽光発電産業協会（EPIA）が2010年3月30日に発表したところによると、世界の太陽光発電は景気後退の影響が懸念された2009年も単年としては過去最高の約640万kWが新規に設置され、累計設備容量は2,000万kWを突破した。国別の2009年新規導入量は、ドイツが300万kW（ドイツ連邦系統規制庁の発表では380万kW）でトップ、以下、イタリア（70万kW）、日本（48.4万kW）、米国（47.5万kW）と続いている。EPIAは、2010年の累計設備容量は2009年比で少なくとも40%増加すると見込んでおり、特に南ヨーロッパ、アジア、米国が有望な市場になると予測している。日本についても、政府の太陽光導入促進政策次第ではポテンシャルの高い市場であるとコメントしている。EPIAは、2014年までの世界の太陽光発電市場展望を今年4月中に発表予定である。